

一圓位まで
和蘭獅子頭
蘭縹に背縹のあるもので五錢より

五十錢位
出目錦
兩眼の飛び出した俗に支那金魚と云ふ

物で一錢より十五錢位
朱文金
普通の金魚と稱する物青、及其他種々

の斑のあるもの三錢より十錢位
和文金
普通の金魚で一錢より二十錢位

御伽噺の研究

御伽噺の研究

久保田米齋氏談

お伽噺や昔噺類の異本を研究するのは一面道楽なやうにも見えるが、其實少年文學研究上の一要素で、決して疎かにすべきでは無からうと思ふ。泰西諸國では、これが研究者も随分多くあつて、其出版物も尠からぬことだが、吾邦では何故か少数の好事家が其異本の蒐集を企てゝゐるといふに過ぎず、文學的研究を試みた人は、寡聞なる

私の耳に二三人を記憶するのみだ。といつて、私自身が文學者の領分に立入り、卒先してこの研究を始むることでは無いが今度私の關係してゐる三越で兒童博覽會を催すのを幸ひ、其機會を利用して平生希望してゐたこの研究に着手するを得たので、狭い自分の研究を土臺として、少しばかり其ことを談して見たいと思ふ。今度私の研究したのは『桃太郎』で、お伽噺といつても随分數のあることであるしなかく一度に彼も此も研究することは到底不可能だ、そこで私は第一着手として『桃太郎』を撰むたので、さて研究して見ると甲から乙へと容易なことでは無い。元來『桃太郎』は延寶から天和の時代に作製されたもので、今から二百五十年餘りも經つてゐる、そして其物語本は二十種内外に及び且つ、中には題名ばかり解つてゐて、内容の不明なものもあるといふ始末、それを詮索するのだから一と通りのものではない。得るに随つて私の讀むものでは、桃太郎が桃の中から生れ出たといふのは新しい方で、最初はさ

うでない。乃ち媼が河から桃を拾つて来て、翁と二人でそれを喰べる、と、急に二人とも若がへつて幾許もなく一人の男の兒を儲ける、これが取りもなほさず桃太郎なので、それから鬼ヶ島征伐をするのは何も大同小異、只だ違ふのは桃太郎歸國して後に桃の流れ来たといふ河に入り、鯨と化して其河の主となる、そして時々其髭を揮ふので世に地震が起り、地震の際に雉子や犬の鳴くのは昔主従の關係があつたからだといふのだ、考へて見ると捏造も甚だしいが桃を喰べて若がへつたといふ筋のは如何にも面白い。

それから此等の本の繪であるが、それは大體その當時の服装に準じたもので、多くは桃太郎に廣袖が着せてある、そして本文よりも繪が主で、物語はいづれも鼈頭に書いてあるのだ。

今度三越で此等の異本の借用したのは安田家だの林若吉氏だの、其二三の珍本藏書家からで堀野文祿氏もこれを蒐集してあるさうだから交渉する筈だがまだ他にも同好の士があらうと、思ふ、併し今回の間にはあふまいから、尙ほ引續き其研究に

従事して、いづれ詳細なるものを發表する覺悟だ。實際此種の研究は、單に好事といふことに止めず進んで系統的にこれを行ふに於ては、傳説や比較神話の研究に到達するもので、敢へて等閑にすべきではない。一例をあげて云へば『文福茶釜』の話なども、『東山化狐』といふのがその原話で、それが段々關東に持來たされ、遂に狐が狸に迄化けかへつたので、此間にも一種の傳說的徑路が存在するのである。

